

オープンキャンパス模擬授業 平成23年11月26日(土)

文学部

<p>人文学科</p> <p>14:10~14:55 2号館6階M2606教室</p>	<p>あなたは“名”鑑定家？-真偽を見極める- 教授 横田 恭三</p> <p>このところ、アジアの文字文化が注目され、中国では多くの書がオークションにかけられています。その一方、偽物や複製品も多く、真偽の鑑定が欠かせません。模擬授業の前半では、書跡や拓本などを例に取って見極め方のポイントを解説し、後半では参加者の皆さんに、本物かどうか実際に鑑定して頂きます。果たしてあなたの正解率は？</p>
<p>現代文化表現学科</p> <p>16:00~16:45 2号館6階M2606教室</p>	<p>消費社会における文化表現-何を消費しているのだろうか？- 教授 佐藤 富雄</p> <p>現代社会は消費社会です。モノだけが大量生産、大量消費されているわけではありません。文化もまた大量に生産、複製され消費されています。ただ、消費されるまでには、流通のプロセス、広告・広報といった情報伝達のプロセスなど、さまざまな要素がからみ合っています。例えば、メディア・ミックス戦略などは「消費させる」戦略の一例です。消費社会では、「文化」の何が、どのように、そしてなぜ受け入れられ消費されているのでしょうか。現代社会において「文化表現」が消費されることの意味と仕組みを考えます。</p>
<p>コミュニケーション文化学科</p> <p>15:05~15:50 2号館6階M2606教室</p>	<p>日本の文化を英語で伝えること 助教 マック,カレン</p> <p>欧米ではどういふ風に日本の文化を伝えているのか気になりますか？例えば、「十二単」、「浮世絵」、「版画」などの英訳は何でしょうか？なぜ「一月」は場合によって、「January」や「First Month」と英訳するのでしょうか？その意味の違いは何でしょうか？「東洲斎写楽」の名前はどいふ風に英語で書くのでしょうか？私達が日頃使用している日本語のローマ字表記も、実際は欧米での表記とは異なります。なぜでしょうか？今日の模擬授業「日本の文化を英語で伝えること」では、英語で日本の文化について話したり、書いたりする基本知識を紹介します。</p>
<p>臨床心理学科</p> <p>16:00~16:45 2号館6階M2607教室</p>	<p>臨床心理学ワールド-人が幸せになることを援助する学問- 准教授 宮崎 圭子</p> <p>臨床心理学とはどいふもの？、どいふような領域が含まれているの？、先人達が私達に残してくれたメッセージは？、今社会が臨床心理学を求めているのは何故？・・・、そいふ素朴な疑問にお答えします。また、大学の講義で実施している好評な「傾聴」エクササイズを実施します。「聴く」とはどいふことでしょうか？エクササイズを通して、私達がいかに日ごろ「聞く」になっているか体験します。そして、臨床心理学ワールドを少し覗いて見ましょう！お楽しみあれ！</p>

マネジメント学部

<p>マネジメント学科</p> <p>14:10~14:55 2号館6階M2607教室</p>	<p>マネジメントと労働（レーバー） 教授 菊野 一雄</p> <p>マネジメントとは「管理」とか「経営」と訳されていますが、いつ頃生まれた言葉でしょうか。また、なぜマネジメントという言葉が誕生したのでしょうか。マネジメントには「経営者」という意味も含まれていますが、これに対しレーバーは「労働者」という意味が含まれています。では、レーバー（労働、労働者）という言葉の語源は一体何でしょうか。この2つの言葉の生誕にまつわるお話をしたいと思います。</p>
<p>観光マネジメント学科</p> <p>16:00~16:45 2号館6階M2608教室</p>	<p>プロゼミ「将来、観光産業で活躍したいあなたへのメッセージ」 -なりたい自分の見つけ方と願望の目標化について- 准教授 篠原 靖</p> <p>今回は1年時の「プロゼミ」の一部を模擬授業として再現します。高校生のあなたが「旅行」や「観光」に興味を持てるのであれば、「難しい事をわかりやすく」「やさしい事を深く」「深い事を面白く」楽しく学んでいきます。そして「知っている」事を「出来る事」に変える実力を養成します。今回は篠原流の個性的な教育カリキュラム「願望」を「目標化」させ「なりたい自分を実現させる」ために必要な手法を公開します。次世代の日本の観光の将来を担う若者は是非参加してください！心を込めてあなたを育成します。</p>
<p>生活環境マネジメント学科</p> <p>15:05~15:50 2号館6階M2607教室</p>	<p>これからの生活とエコビジネス 教授 宮崎 正浩</p> <p>3月11日の大震災と原発事故で私たちの生活は大きく変わりました。私たちは日々節電に努めないといけません。しかし、このような危機的な状況を逆にチャンスととらえることはできないでしょうか？原発に代わるものとして太陽光や風力発電などの自然エネルギーを導入することや、エコカー、省エネ家電、エコ住宅などをうまく取り入れていくことが考えられます。このことによって新たなエコビジネスが活発化し、雇用も増えるでしょう。本授業では、これからの私たちの生活とエコビジネスについて考えます。</p>